

令和4年度学校自己評価システムシート(県立けやき特別支援学校伊奈分校)

目指す学校像	安定した人間関係を形成し、「自らの病状や実態を理解し、自らの健康管理ができる力」と「基礎学力」を身につけさせ、子どもたちの夢や希望の実現に向けて全力で取り組む、保護者・病院から信頼される学校
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 病弱教育における自立活動の観点を押さえ、ICTを活用した授業の充実を図る。 2 子ども主体の各種活動をおし、豊かな心・創造性を育む。 3 円滑な復学支援をはじめ、病弱教育のセンター的機充実させ、病弱教育の啓発に努める。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<p>【現状】 令和3年度は「ICTを活用した自立活動の実践研究」をテーマに児童生徒の確かな学びにつながるよう「書字」「発表」「話し合い活動」「指示説明の理解」の4つの観点から教育活動全体に関わる自立活動を研究し、主体的・対話的で深い学びの充実を推進した。</p> <p>【課題】 IWB機器が教室に1台整備されたため、児童生徒のiPadとともに、ICT機器のより良い活用がさらに求められている。昨年度の研究をもとに、教科学習に関しても児童生徒の実態にもとづいた基礎学力の定着に向けた授業を展開する必要がある。</p>	<p>・授業のユニバーサルデザイン化やICT機器の活用をさらに推進し、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の充実。</p> <p>・病弱教育における自立活動の観点の踏まえた教科指導の進め方の整理。</p>	<p>・研究や研修を通して、教員のICT機器活用能力のさらなる向上を目指し、ユニバーサルデザイン化された授業を展開できるようにするとともに、生徒が能動的かつ効果的にICT機器を活用できるような指導・支援を行っていく。また、必要に応じて小テストや反復練習、生徒同士の話し合い活動を行うことなどを通し、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。(中学部)</p> <p>・iPadやIWBをはじめとする各種ICT機器の充実が図られてきている。その運用に関しては、適宜研修会を実施したり情報交換を行う中で、より積極的・効果的に活用できるように環境整備を行う。また、必要な時にすぐに使えて安全に管理できるよう分掌外の先生方からの要望等を生かしながら進める。(教務・情報部)</p>	<p>・授業の中でユニバーサルデザイン化された授業を行い、ICT機器を効果的に活用することができたか。</p> <p>・生徒が、課題を解決するために能動的にICT機器を活用し、学びを深めることができたか。</p> <p>・基礎学力の定着を図ることができたか(中学部)</p> <p>・iPadやIWBを授業で使いやすいうように整備することができたか。また、「stアカウント」等の積極的活用のための研修会を、長期休業期間や必要に応じて企画実施することができたか。(教務・情報部)</p>	<p>・どの教科もICT機器を効果的に活用することができた。今年度はインタラクティブホワイトボードが各教室に配置されたことで一層ICT機器の活用が進んだ。</p> <p>・Googleのフォームやジャムボードの機能を活用することで、教員が生徒の学習状況、深まりや定着をチェックすることができた。また、生徒にとっても「考える」「整理する」「比較する」手助けともなり、主体的な学習の姿を見ることができた。また、基礎学力の定着も図ることができた。(中学部)</p> <p>・iPadやIWBをはじめとする情報機器の整備が進んだ。先行して取り組む教科等についてサポートし、周知してきた。(教務・情報部)</p>	A	<p>・来年度も教員がICT機器に関する研修を積んでいく。教員同士で活用方法を共有し、ICT機器をさらに効果的に活用できるように努める。(中学部)</p> <p>・次年度も必要に応じて研修等を企画し、日ごろの学習活動に有効に活用できるように進めていきたい。(教務・情報部)</p>
2	<p>【現状】 令和3年度は、コロナ禍においても工夫を凝らして行事に取り組んだ。実施した行事に関しては、発表や作品の展示が難しい児童生徒でも、行事を作り上げていく達成感、充実感を感じられるよう、児童生徒に役割を設けて取り組んだ。</p> <p>【課題】 令和4年度も全ての児童生徒が基本的自尊感情を高めることができるような共有体験の場を、行事だけでなく普段の授業をおして設定していく必要がある。</p>	<p>・児童生徒同士、児童生徒と教員との共有体験が深まる場を多く設定し、児童生徒の基本的自尊感情の向上。</p>	<p>・各行事において、小・中学部を合わせた班編成や係活動を設定することで、児童生徒と教員との共有体験が深まるようにする。また、普段の授業において互いの存在を認められるよう、調べたことを紹介したり、意見を交換したりするような時間を設ける。その際必要に応じてタブレット等ICT機器を活用していく。(小学部)</p> <p>・児童生徒の自尊感情を高めるための手立ての一環として、学期に一度の防災講話の中で共有体験が得られる活動を行う。授業にあたっては、ワークシートを用いたり話し合いの時間を設けたりし、児童生徒が主体的に気づきや発見を得るとともに、それらを共有できるようにする。(指導・保健部)</p>	<p>・行事の参加について個々の実態に配慮しながら、児童生徒同士、児童生徒と教員の共有体験を持つことができたか。また小学部の授業において児童同士が交流を持つことができたか。(小学部)</p> <p>・学期初めに防災講話の際に小グループで取り組むクイズや話し合いの機会を取り入れ、友達との関わりの中で自他の考えを尊重する経験ができたか。(指導・保健部)</p>	<p>・校外体験学習や文化祭等の行事において、学部を合わせた班編成や係活動を設定し、回数を重ねたことで共有体験を深めることができた。集団参加に配慮が必要な児童に対して、タブレットを活用しての事前学習ができ、安心して行事に参加することができた。また、普段の授業においても、取り組んだことや意見を伝える時間を持つことで、互いに関心を持ち交流することができた。(小学部)</p> <p>・2学期初めに地震、3学期初めに火災についての防災に関する授業を実施した。基本的な知識を学ぶ手立ての一環として、小グループに分かれてのクイズを行った。提示された3択クイズについて、生徒たちはグループ内で自分の意見を出し合い、正解となる意見を出した友達に感謝を伝えるなど、意見の共有や尊重をする経験を積むことができた。(指導・保健部)</p>	A	<p>・次年度も引き続き、児童生徒の状態を配慮しながら、小・中学部を合わせた活動を設定したり、普段の授業から交流を持てるように工夫していく。ICT機器については特に総合的な学習の時間において、パソコンで作ったものをお互いに発表する機会が有効であったため授業に取り入れていきたい。(小学部)</p> <p>・年間を通して2回の実施であったため、授業に参加できなかった生徒が一定数いた。できる限りその年度に在籍する生徒全員が一度は参加できるように、内容とともに実施の時期や回数、授業形態について再度検討したい。(指導・保健部)</p>
3	<p>【現状】 昨年度も特別支援学校のセンター的機能として、県内の学校の支援を行った。コロナ禍のためオンラインで支援を行うこともあったが、今後も支援の方法について柔軟に検討を行う。</p> <p>【課題】 学齢期の精神疾患や心身症等の理解のための情報や支援方法を、小中高等学校等に発信したり復学支援につなげたりしながら、今後も病弱教育に対する理解を広げる必要がある。復学支援会議については伊奈分校の学びが復学先につながるよう転学時アンケートの結果を生かして、内容を工夫していく。</p>	<p>・学齢期の精神疾患や心身症等の理解のための情報や支援方法を、小中高等学校等への発信。</p> <p>・個別の自立活動や復学支援における「自分メーター」の活用。</p>	<p>・精神疾患・心身症の児童生徒の理解のための情報や支援方法を発信するため、全市町村への地域支援のパンフレットの配布や公開講座の開催をおして、センター的機能の充実を図る。特に公開講座は、広く県内の関係校や関係諸機関へ情報発信を行い、精神疾患や心身症への理解を深める機会を提供する。</p> <p>・前籍校訪問等をおした連携により、転入時から復学を視野に、困り感やできることを整理し、より復学しやすい環境を整える。自立活動における面談や「自分メーター」の活用、集団での自立活動の内容等を生かしながら復学支援につなげる。また、転学時アンケートを適宜依頼し、よりスムーズな復学が図れるようにする(相談・研究部)</p>	<p>・全市町村にパンフレットを配布し、伊奈分校の地域支援の発信ができたか。また、公開講座の開催方法を工夫しながら、年に2回行ったか。</p> <p>・前籍校訪問を計画的に行い、前籍校との連携や復学支援に生かすことができたか。復学支援の内容については、アンケート等をフィードバックしながら、より有効な支援につなげることができたか。(相談・研究部)</p>	<p>・伊奈分校の地域支援チラシや取組をホームページや公開講座アンケートに掲載して県内外に広く発信した。公開講座は、オンデマンド配信やオンライン開催で、計2回実施することができ、約400名の参加があった。以上のような活動を通して、センター的機能の充実を図ることができた。</p> <p>・前籍校訪問で得た情報を生かしながら前籍校や保護者と連携し、復学に向けてより個々に合った支援を進められた。復学支援会議では、自分メーターを始め、伊奈分校での教育活動を生かしながら、転出後に向けて具体的な話し合いが行えた。転出時アンケートも計画的に行い、100%の回収率だった。復学に向けた取組について「参考になった」との意見がほとんどだった。(相談・研究部)</p>	A	<p>・今後もHPや公開講座の機会等を利用して、センター的機能の周知を図る。公開講座は、状況に合わせた開催方法を工夫しながら、年に2回開催する。</p> <p>・前籍校訪問は今後も計画的に行い復学に生かす。転学時アンケートでは、復学に当たった取組は参考になったというご意見が多いものの再び不適応を起こしているケースもあるため、病院と連携しながらセンター的機能を活用したアフターフォローを行う。転学時アンケートは、よりニーズに応えるために、デジタル化を検討する。(相談・研究部)</p>

学校関係者評価
実施日 令和5年2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>ICT機器を活用した授業により教育の質の向上を図っていて、病弱児教育ならではのICT機器の活用も見られました。</p> <p>ICT機器を活用した教育の推進はどんどん進んでいく。SNSなどのトラブルの回避も踏まえながら適切な活用を進めてほしい。機器の先(向こう側)には人がいることを踏まえ、ICT機器を使ったコミュニケーションスキルとともに、直接人と対話することで培われるコミュニケーションスキルも向上していけるとさらに良い。</p> <p>ICT機器を業務改善のツールとして、伊奈分校の実情に合わせて活用していけるとよい。欠席連絡のほか、会議のペーパーレス化など、様々な視点から取組んでいってほしい。</p> <p>自尊感情を高めるためにどのような対応をしているのか詳しく知りたい。ぜひ紹介していただき、自校でも取り入れられるものがあれば活用してみたい。</p> <p>病棟と学校が近い関係で双方の取組が実施できている。引き続き、感染対策を考えながら子供たちのために適切に連携していきたい。</p> <p>学校コンサルテーションや公開講座をおして、病弱教育や学校生活に課題のある児童生徒に対する理解が深まっている。学校コンサルテーションを受けた学校において、活用の質に変化が表れている学校が見られ始めているということは素晴らしい。特別支援教育コーディネーターをはじめとする、教職員の日々の努力が成果になって表れてきたということであると思う。</p>